

2020 年度学生生活調査（学修時間・行動調査）報告書

2020 年 10 月 30 日

医学部 I R 室

1. 調査概要

1-1. 調査目的

本学医学部学生の学修・生活に関する実態を調査することを目的とした。

1-2. 調査項目

調査項目は、生活時間（学修時間、行動調査）について、独立行政法人日本学生支援機構「学生生活調査」を参考にして作成した。

1-3. 調査対象

医学部 1～6 年生 718 名を対象とした。

1-4. 調査方法

2020 年 10 月 9 日～10 月 23 日において、Web(AIDLE-K)により記名式の調査を実施した。

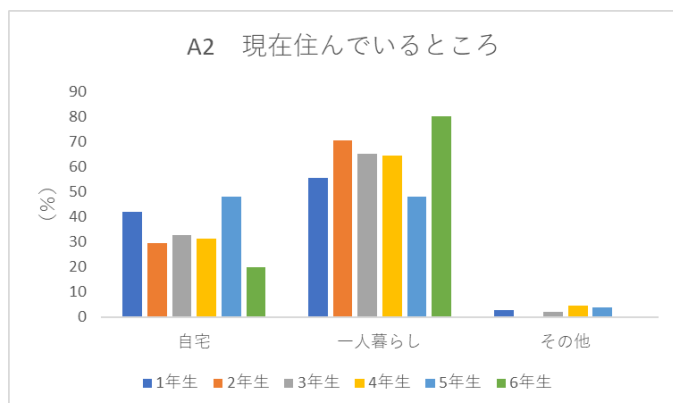
1-5. 回答者数と回収率

1 年生から 6 年生まで 278 名が回答した。内訳は、1 年生が 81 名（回収率 63.3%）、2 年生が 54 名（回収率 44.3%）、3 年生が 46 名（回収率 40.0%）、4 年生が 45 名（回収率 37.8%）、5 年生 27 名（回収率 25.0%）、6 年生（回収率 19.8%）であった。

2. 結果

I. 住居

住居（A2）に関しては、一人暮らしが 65.1%、自宅が 32.7%であった。



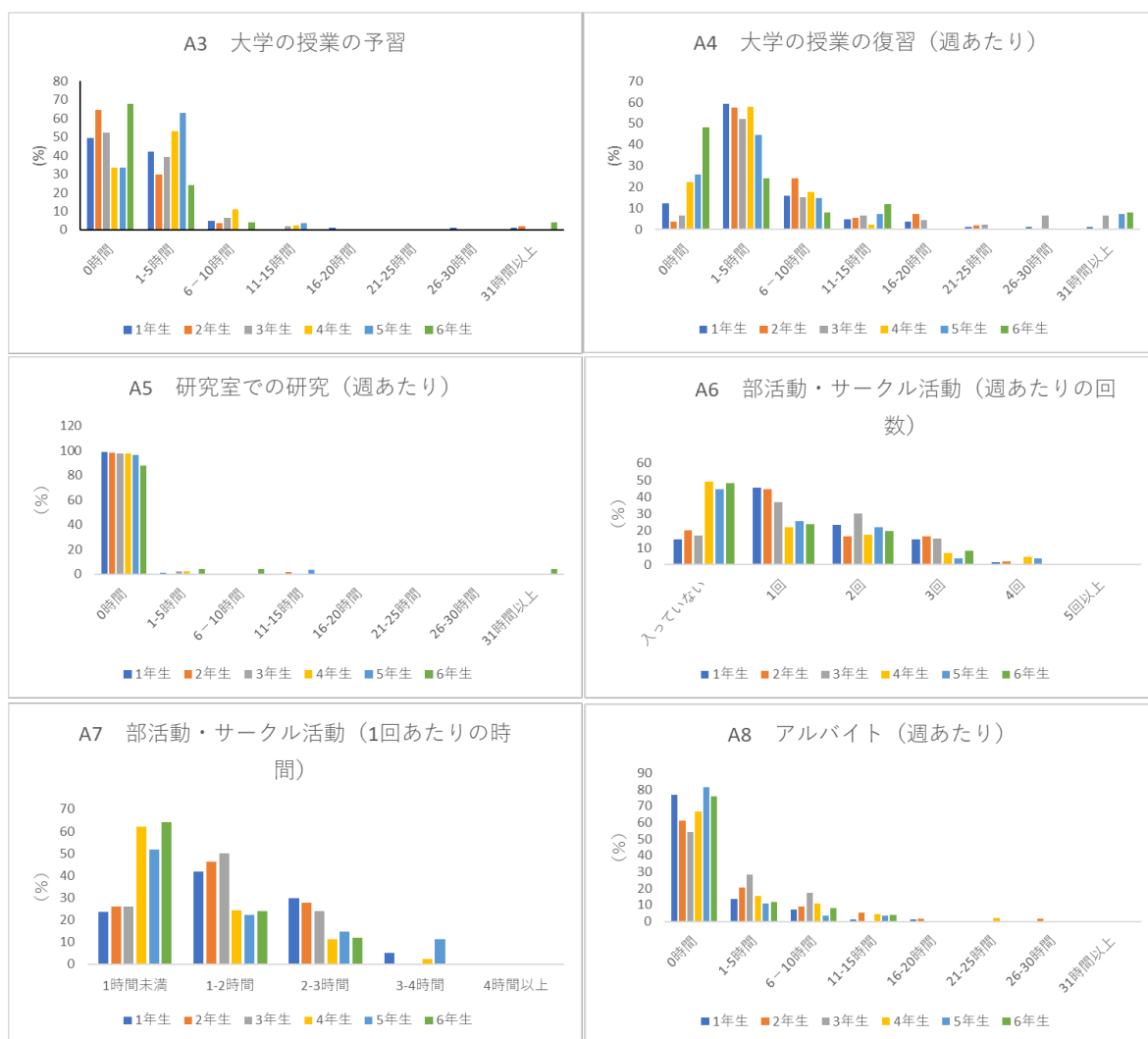
II. 学生生活の状況

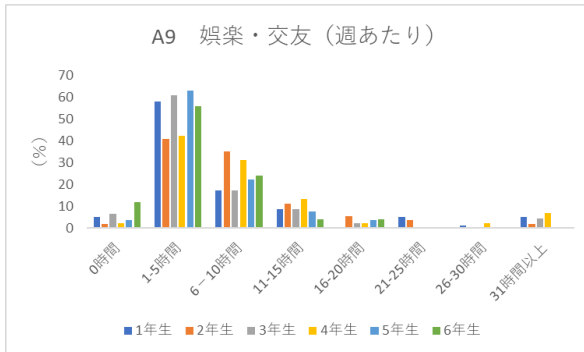
授業の予習にかける時間（週あたり）（A3）は、0時間が50.4%（65.9%, 2019）、1～5時間が41.4%（29.9%, 2019）、6～10時間が5.4%（3.1%, 2019）であった。復習にかける時間（週あたり）（A4）は、0時間が15.8%（23.1%, 2019）、1～5時間が52.9%（40.4%, 2019）、6～10時間が16.9%（12.4%, 2019）であった。研究室での研究（週あたり）（A5）は、0時間が97.1%（96.2%, 2019）であった。1時間以上（週あたり）研究を行っている学生は2.9%（3.8%, 2019）であった。

部活動（A6, A7）については、27.7%（18.6%, 2019）の学生が部活に入っておらず、70.4%（77.8%, 2019）の学生は、1～3回の部活動を行っていた。また、1回あたりの時間は、1～3時間で60.1%（73.7%, 2019）であり、3時間以上は2.9%（8.0%, 2019）であった。

アルバイト（A8）については、0時間が68.7%（63.9%, 2019）、1～5時間が17.5%（18.0%, 2019）であった。16時間以上の学生は1.5%（2.6%, 2019）であった。

娯楽・交友（A9）については、1～5時間が52.9%（42.6%, 2019）と最も多かった。

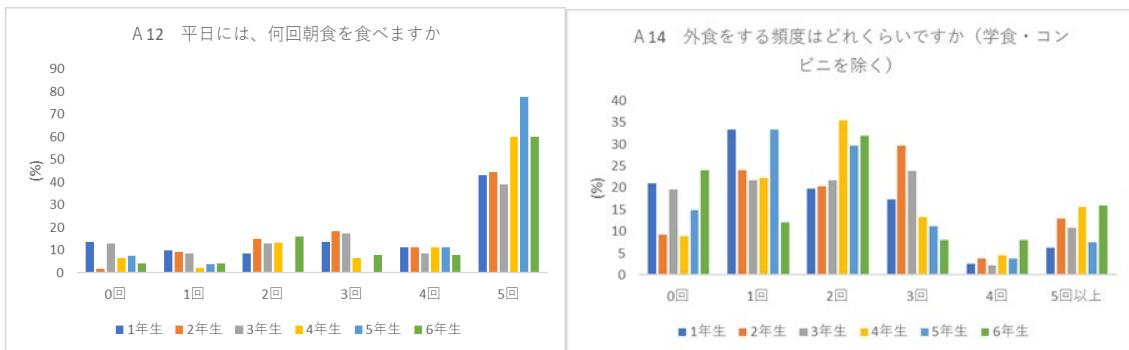




III. 食習慣

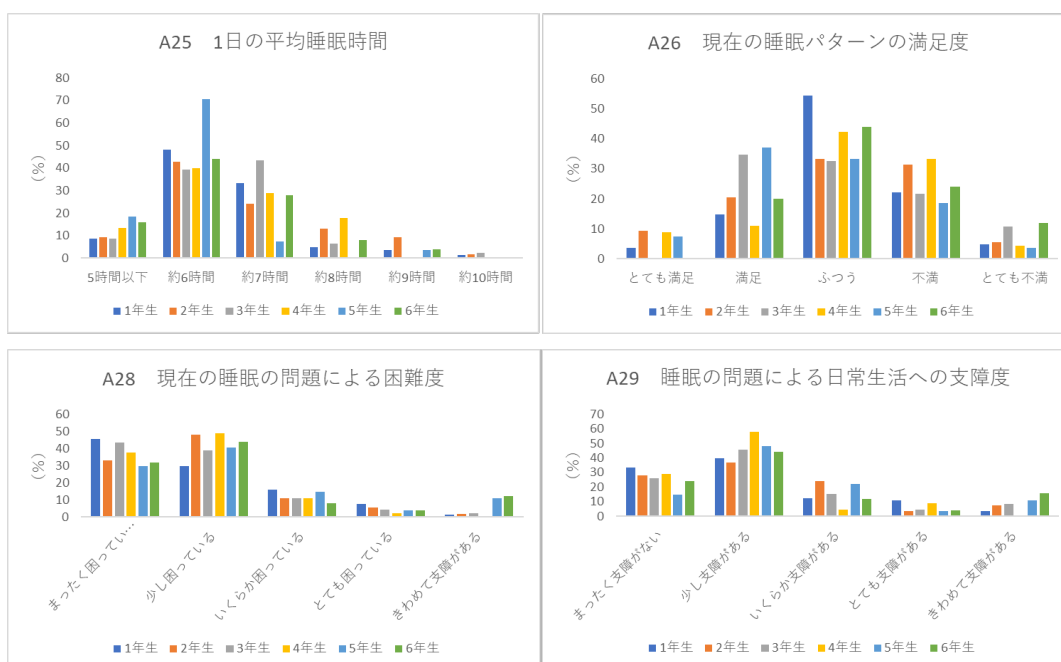
朝食の摂取状況(A12)は、平日5回と回答した学生は、1年生43.2%(55.7%, 2019)、2年生44.4%(42.9%, 2019)、3年生39.1%(48.2%, 2019)、4年生60.0%(51.9%, 2019)であった。0回と回答した学生は、1年生13.5%(4.9%, 2019)、2年生1.8%(8.0%, 2019)、3年生13.0%(6.3%, 2019)、4年生6.7%(17.3%, 2019)であった。

外食の頻度（学食・コンビニを除く）(A14)が5回以上の割合は、1年生6.2%(11.5%, 2019)、2年生12.9%(11.6%, 2019)、3年生10.8%(21.4%, 2019)、4年生15.5%(13.5%, 2019)であった。



IV. 睡眠について

睡眠時間(A25)は約6時間の人が46.0%(49.9%, 2019)と最も多く、5時間以下の割合は11.2%(16.4%, 2019)であった。学年別の睡眠時間5時間以下の割合は、1年生8.6%(21.1%, 2019)、2年生9.2%(16.1%, 2019)、3年生8.6%(17.0%, 2019)、4年生13.3%(10.6%, 2019)であった。また、現在の睡眠パターンの満足度(A26)においては、「不満」と回答した学生が25.5%(27.9%, 2019)であり、「とても不満」とする学生は6.5%(7.5%, 2019)であった。睡眠の問題による困難度(A28)であるが、「とても困っている」および「きわめて困っている」と回答した割合を合計すると6.8%(4.7%, 2019)であった。また、睡眠の問題による日常生活への支障度(A29)は「とても支障がある」および「きわめて支障がある」が13.3%(10.9%, 2019)であった。



3. まとめ

医学部1年生から6年生の学生を対象とし、学生生活調査を実施した。2020年度においてはコロナ禍であり、前期においては、完全オンライン型の講義を1年生から4年生は受講している。後期においては、一部分散登校下におけるハイブリッド型（一部対面とオンライン）の授業が始まったもののほとんどの学生はオンラインにて受講している。

今回、学生の学修時間・行動調査を昨年の結果と比較した。学生生活に関しては、授業の予習にかける時間（週あたり）は、0時間が50.4%（65.9%, 2019）、1～5時間が41.4%（29.9%, 2019）、6～10時間が5.4%（3.1%, 2019）であり、復習にかける時間（週あたり）は、0時間が15.8%（23.1%, 2019）、1～5時間が52.9%（40.4%, 2019）、6～10時間が16.9%（12.4%, 2019）との結果であり、昨年度と比較し、予習や復習にかける時間が増加傾向であった。

睡眠時間に関しては約6時間の人が46.0%（49.9%, 2019）と最も多く、5時間以下の割合は11.2%（16.4%, 2019）であり、学年別の睡眠時間5時間以下の割合は、1年生8.6%（21.1%, 2019）、2年生9.2%（16.1%, 2019）、3年生8.6%（17.0%, 2019）、4年生13.3%（10.6%, 2019）との結果であり、5時間以下の睡眠時間の割合が昨年度と比較し、減少傾向であった。

今年度の学生生活に関しては、コロナ禍であり、例年とは異なる学修時間および生活行動であることが推測されるが、来年度においても学修時間・生活行動のデータを引き続き、分析することで、ポストコロナにおける学修時間・生活行動の経年変化を検証する。